

宮城第三アパート 「知って賢い老い支度講座」

今は元気に暮らしていても、最期は誰にでも訪れます。しかし、改めて人生の最期について考えようとする「何を準備したら良いのか」と不安になりませんか？

今回の講座では、自分や家族のために“前向きに老い”と向き合う機会につながればとの思いで企画されたそうです。

参加者からは「エンディングノートは暗い印象があった。家族に向けた人生の引継ぎノートになると学び、書いてみようかなと思った」「最初は不安に感じていたけれど、少しずつ、最期のことを考えてみたい」との声があり、前向きな気持ちに次第に変化されていたのが印象的でした。



地域包括支援センター新田が企画し、権利擁護センターあだち職員を講師に招いて老い支度講座を実施。会場となった宮城第三アパートの住民が主に参加しました。



参加者には「考えたくない、こわい」という方もいれば、「全部決めた、考えておいて損はない」という方も。様々な声が飛び交っていました。



女性の参加者が多く、家族にどこまで任せればいいのか、互いに話し合う場面もありました。

取材日：令和5年2月20日 参加者数：12名

取材メモ：皆さん、老い支度について真剣に考えている姿が印象的でした。

(足立社協 荒井美里)

問合せ先：地域福祉課 ☎6807-2460 FAX5681-3374